編集後記：プロジェクト観測への参加のため，熱帯の国々を訪れることがあります．滞在中，食堂や商店での市井の人々との会話は，はじめは「どこから来たのか」や「何をしているか」なのですが，毎日顔を合わせるようになると，「今日も暑いね」とか「良い天気だね」というような話題になるのは各国共通です．

この「良い天気」，我々のように降水現象を研究対象としている者にとっては，雨が降るのが望ましいこともあるのですが，一般的には晴天時に使う挨拶だろうと思っていました．ところが，熱帯の国々では晴天は必ずしも「良い天気」ではないのです．晴れると暑いし，肌も日に焼ける．島国の場合は，雨が降らないと水不足が心配になったりもします．

曇っていて風が吹かないのが「良い天気」の漁師さん．小雨が降って微風が心地よいのが「良い天気」のウエイターさん．もちろん，お客さんをマリンスポーツに連れて行くため，晴れて暑いのが「良い天気」という観光業者さんもいます．それぞれの人に，それぞれの「良い天気」があるのでしょうか．

さて，編集委員を務めるようになって，学会機関誌としての『天気』の読み方も，人それぞれであることに気づかされました．論文誌と捉えている方もいれば，情報が集約されていることに重きを置く方もいる．紙に印刷されているので線を引きながら読むのが好きだったり，コンピュータを駆使してオンライン天気をデータベースとして活用したり．それぞれの読者に，それぞれの『天気』があるようです．

今月号の『天気』にも様々な記事が掲載されています．どのように読まれ，どのように使われていくのか．いずれにしても，皆様にとって，「良い『天気』」であることを願っています．

（城岡竜一）